

近世松江の女・男・子ども

2019 年 5 月 11 日 (14:00～15:45)

沢山美果子（岡山大学大学院客員研究員）

はじめに

- ・人々が生きる歴史的現場としての近世松江を焦点に
松江市史 第七章「人々の暮らし」で重視した視点：人々が生きる歴史的現場に焦点
松江という地域に生活する人々の固有の暮らしとその変化を具体的に明らかにすること
とで、その地域の特質を浮かび上がらせる。
- ・人々は、どのような関係を結び地域で生きていたのか？
近世松江地域という時空間に焦点を当て、女・男・子どもの関係性に留意しつつ、「いのち」の視点から、人々はどう生きたか、とくに女・男・子どもの生きる場であった「家」と「いのち」に着目して考える。

1、近世松江の女・男・子どもへの接近

1) 地域に残された史料を読み解く

- ・様々な多様な史料を重ね合わせて読み解く
←日常的に営まれる暮らしの記録は残りにくいという困難を克服するために
a 数量的史料（宗旨証拠帳、御家中町方奉公人帳、宗門御改増減人別帳、宗門放証文之事）と b 質的史料（褒賞の記録、日記、離縁状、出産、死亡の記録、民間療法の写本、処罰＝もめごとの記録）の重ね合わせ
- ・時空間のなかの歴史の現場、歴史の中で忘れられがちな女たちの生と声への接近
a 絵図による生活空間の再構成（松江白潟町絵図）と b 太助の（新屋分家の手代）の「大保恵日記」（文政 9 年 [1826] ～安政元年 [1854]）など私文書との突合せ：太助の日記（女の身体経験としての月経、男として驚き畏れた女の言葉の記録）
（cf この二つの史料を手がかりにした内田文恵の仕事）
女たちが生きた場を空間的に把握（女名前の戸主の存在など）

2) 生きることへの接近

- ・ライフサイクルとライフコースの両面に着目
ライフサイクル：近世に生きた人々に共通する人生のありかた
ライフコース：人生は、それぞれにユニークで個人による異なる
⇒いのちの次元から、女、男、子どもの関係性の中で営まれた暮らしに接近

2、近世松江の女・男・子どもの「いのち」の状況

1) 上大野村の宗旨証拠帳からみえること

上大野村の人口変化（寛延 4 年[1751]～文政 4 年[1821]—人口は増加傾向【図 1、2】

天明 8[1788] ～寛政 4 年 [1792]：大幅減少（特に女子）←天明飢饉の影響

男子の出生数>女子の出生数←人為的操作か？

62 歳以上の人口が村全体に占める比率の高さ、女性の比率の高さ

2) いのちへの関心の高まり—19 世紀前半

18 世紀後半～19 世紀初め：人々にとって「家」の維持・存続が重要な課題に

a いのちを守る生活文化＝民間療法（文化 12 年 [1815] ～文政 5 [1822]）【史料 1】

民間療法の流布の経路、年代がわかる記録は稀有

妙薬の記載「男には女魚、女には男魚」←近世の男女和合の意識

子どもの「疱瘡」、女の出産、「女の血漬、男の疝気」：子ども、女、男の身体性に留意

b 木幡家の「いのち」をめぐる記録：出生と死の記録

b-1 出産と子どものいのちをめぐる記録

「弘化三年申年十月廿一日ヨリ お蔵初産 於梶出生 諸事見合帳 廿一日朝辰ノ刻出生 木幡屋」「嘉永元年申年七月十日戌下刻出生 お久良 二女お安出生 諸事見合 木幡店」「お倉安産 三女お中出生諸事見合一途」→安産と出生を区別【史料 2】

お倉：22 年間に 8 人の女子を出産→うち 5 人死亡（3 人は生後 1 年未満で死亡）

*近世社会：女性が出産でいのちを失う確率の高さ（女性の 4 に 1 人：出産が原因で死亡）

子どものいのち：出生児の 20%1 近く 1 歳未満で死亡、5 歳までに 20～25 パーセント

→いのちをつなぐためのネットワークの形成（医者、取揚げ婆の関与、女たちの夜伽）

→生育儀礼（生後三日目、五日目、七夜、生後 1 か月の宮参り、生後 1 年のお食い初め）

b-2 当主の病と死の記録（「与右衛門容体」（文化 13 年 [1816] 4 月 29 日～6 月 10 日）

身心の状況の数量化、意識化、病克復の努力（大小便の回数と量、下血の量を記録）

→養生や医療への関心、数量化→近代的身体観への兆し【史料 3】

3) いのちを守るネットワーク

a 乳をめぐるネットワーク

松江藩の上層武士：農村女性の乳の徴収→「急ぎ必要」な乳（出産前登録、今年出産> 去年）、「家中」への奉公を敬遠する農民の女性たち【史料 4】

b 行き倒れと捨て子記録にみるいのちの保護のシステム

「池尻家御用留」にみる捨て子事例【表 1】

捨て子事例 7 件、うち 1 件は間引きに近い事例

捨て子の人相書：身長、顔の形、肌の色、鼻の高低、鼻筋が通っているか、口や歯並び、耳の状態、月代が薄いかな否か、眼が大きいかな細いかな、言葉がわかるか「国言葉」か、着用の衣類や持ち物

捨てられるまでの生活環境がうかがえる記載も

天保 8 年 7 月 22 日の暁に、大原郡織部村で裸で泣いていた三歳位の男子【史料 5】

天保 6 年(1835)～天保 8 年(1838)に集中(←天保飢饉の影響)：三歳以上の子ども

- ・親が判明は2件(その一つが松江本町丈兵衛後家まつと豊三郎【史料6】)

女の行き倒れ人：「家」の保護から外れた女性、女が生きる糊口手段の一つが乞食
豊三郎は捨て子扱いに→神門郡知井宮村、喜平太、貰請け希望、養育米2俵
→事例から読み取れる行き倒れ、捨て子の保護のシステム

3、女・男・子どもが生きた時空間への接近

1) 非日常的な記録への着目

村のもめごとの記録→近世社会の家と村、男と女の関係とは？【史料7】

天保3年(1832)秋鹿郡浜佐陀村寺津(現 松江市浜佐田町)助七女房への処罰
近世の村落共同体：「家」の維持・存続、共同体で協力しつつ生活することを重視
夫には妻を管理する責任

2) 絵図と日記のつきあわせによる時空間への接近

a 絵図による生活空間の再構成(松江白潟町絵図)と b 太助の(新屋分家の手代)の「大江日記」(文政9年[1826]～安政元年[1854])など私文書との突合せ：太助の日記
(女の身体経験としての月経、男として驚き畏れた女の言葉の記録)
(cf この二つの史料を手がかりにした内田文恵の仕事)

女たちが生きた場を空間的に把握(女名前の戸主の存在など)【図4】【表2】

3) 近世松江の「家」と「遊所」―「大保恵日記」にみる売買される性

a 遊女の逃亡・心中・折檻

嘉永元年(1848)4月7日：置屋魚屋宗助の抱える梅竹の逃亡

→寺町の八百梅が梅竹を自分の八百屋畑に隠す

嘉永元年春：左近小路の熊吉が置屋、八百屋の女を連れ逃亡

嘉永五年(1852)6月12日、14日

塗師清十の倅の虎と中嶋屋の遊女千鳥との心中未遂事件

⇒松江城下の未婚の男たちが遊女の買い手：近世社会＝遊所の大衆化「売春社会」

b 買う男、買われる女

文政9年(1826)9月26日の「大保恵日記」

伯耆国米子で新町の売女三人を呼ぶ

文政13年(1850)7月4日

嶋屋の玉ノ井が逃げかけて捕まり「大いに責めらる」様子を新屋二階から「見物」

町絵図にみる置屋と座敷【図5】≠堀や塀で囲われた「廓」

性を売る商品である遊女の逃亡には厳しい折檻

→太助の日記：「家」と「遊所」を区別する意識(置屋が遊女を買う証文も書く)

⇒「家」と「遊所」を行き来するのは男という性の二重規範

おわりに―残された課題

- ・ 生きることの主題化へ：ジェンダーの視点の重要性

「これまで歴史学は、ひとが何ヲシタカに関心を集中させ、如何ニ生キタカをほぼ等閑に付してきた。……シタことに主眼を置く限り、そのことで目立つ男性の事蹟が叙述の中心となり、女性は総体として歴史叙述から排除されていた。それだけに女性史は、「生」の主題化という歴史学の転換に当たって先頭走者となっている」（「化生する歴史学」『鹿野政直思想史論集 7巻』208－209頁）

- ・ 近世から近代への展開とは？－「生きること」という視点から問う

いのちの扱われ方の変化（『山陰新聞』の広告【図6】、島根県統計書「死セシ棄児」へ）

近代以降の遊所の変化→廓へ

褒賞の内容の変化（cf 島根県史料（一）（二）（三）〔忠孝節義〕明治2年～8年 『松江市史 史料編9 近現代1』）

参考文献

内田文恵「女性の暮らし」（乾隆明編著『松江開府四〇〇年 続松江藩の時代』（山陰中央新報社、2010年）

上野富太郎・野津誠一郎編『松江市誌』1941年

河上真喜子「近世後期農民女性のライフサイクルについて－出雲国秋鹿郡上大野村の宗旨証拠帳の分析を通して」（島根大学法文学部卒論、2010年）

鬼頭宏『人口から読む日本の歴史』（講談社学術文庫、2000年）

倉地克直『全集 日本の歴史 第11巻 徳川社会のゆらぎ』（小学館、2008年）

倉地克直「買売春を考える」（倉地克直・沢山美果子編『男と女の過去と未来』（世界思想社、2000年）

沢山美果子「近世人のライフコース」、水本邦彦編『環境の日本史4 人々の営みと近世の自然』（吉川弘文館、2013年）

沢山美果子「近世の性」『岩波講座 日本歴史 第14巻 近世五』 岩波書店 2015年

沢山美果子「町絵図と日記に見る女の姿－松江城下の場合」『歴史地理教育』2017年8月

曾根ひろみ『娼婦と近世社会』（吉川弘文館、2003年）

塚田孝『大坂民衆の近世史－老いと病・生業・下層社会』ちくま新書、2017年

船杉力修「城下町の景観の動態的変容に関する歴史地理学的研究」報告書〈絵図集〉2090年

松江市歴史まちづくり部史料編纂課『松江歴史史料集2－1 大保恵日記 I』（松江市2016年）

松江市歴史まちづくり部史料編纂課『松江歴史史料集2－2 大保恵日記 II』（松江市2018年）

松原祥子『松江城下に生きる－新屋太助の日記を読み解く－』（松江故郷文庫九、松江市教育委員会、2010年）